

# 漁海況旬報

No. 14 - 24

## ちば

平成14年8月30日発行  
千葉県水産情報通信センター  
千葉県水産研究センター

### 2002年上半期の定置網水揚状況

鴨川、和田及び波左間の各定置網における2002年上半期（1月～6月）の水揚状況について報告します。

#### 1. 鴨川漁場の水揚状況

2002年上半期における水揚量は2,328トンで、不漁だった昨年(1,115トン)を大きく上回り、近年(1996～2001年)同期平均(2,148トン)並でした(図1)。2000年、2001年と水揚量が減少していたカタクチイワシは、今期1,546トンと大幅に増加しました。マアジも419トンと増加しています。いっぽうサバ類(マサバ及びゴマサバ)は、昨年1996年以降最低の水揚げだった昨年を若干上回ったものの、近年平均の27%と依然として低水準です。またマイワシも2トンと1996年以降最低の水揚げとなっています。

上半期の水揚げを月別にみると、3月を中心にカタクチイワシが1,375トンとまとまって入網しており(図2)、総水揚量の増加の要因となっています。

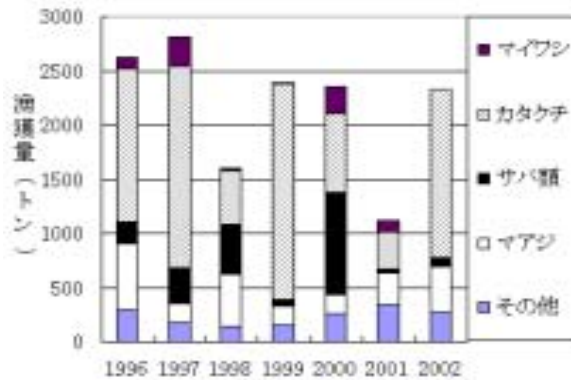


図1 鴨川漁場における1996～2002年上半期の漁獲量の推移

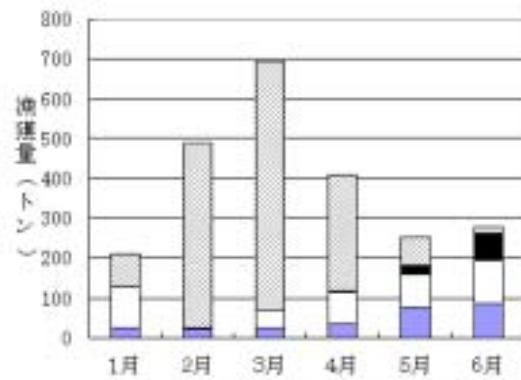


図2 鴨川漁場における2002年1～6月の漁獲量の推移

#### 2. 和田漁場の水揚状況

2002年上半期における水揚量は529トンで、不漁だった昨年(697トン)をさらに下回り、近年同期平均(1,132トン)の47%と低調な水揚げとなりました(図3)。和田でも、カタクチイワシは昨年を大きく上回る353トンの水揚げがありましたが、昨年好調であったマアジが大きく減少し、前年の17%(55トン)にとどまっています。またマイワシ、サバ類も昨年と同様に低調な水揚げとなっています。

今期好調であったカタクチイワシは、鴨川より1か月早い2月を中心に入網しました。昨年4月に208トンと大量に水揚げされたマアジは、散発的な入網でした(図4)。

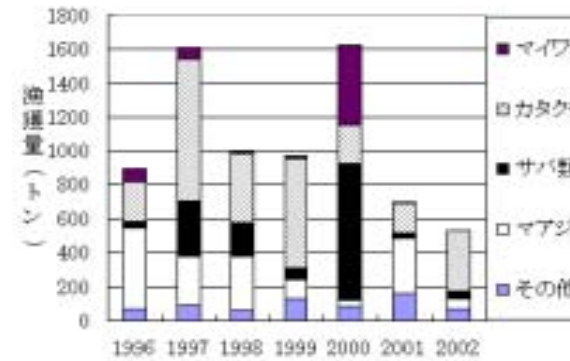


図3 和田漁場における1996～2002年上半期の漁獲量の推移

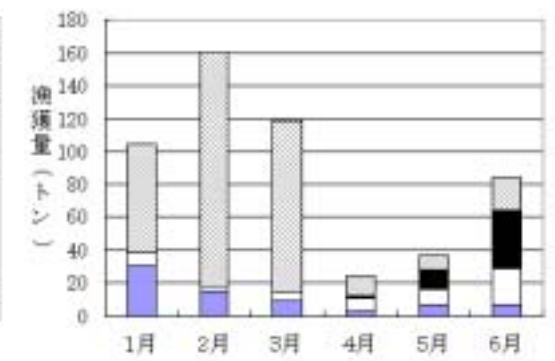


図4 和田漁場における2002年1～6月の漁獲量の推移

#### 3. 波左間漁場の水揚状況

2002年上半期における水揚量は211トンで、昨年(195トン)の108%と昨年並でしたが、近年同期平均(455トン)を大きく下回り昨年に続く不漁でした(図5)。波左間でも他の2漁場と同様にカタクチイワシが昨年比304%(102トン)と増加しました。しかしサバ類、マアジは昨年の30%前後と減少しています。マイワシは1996年以降最低の水揚げだった昨年は上回りましたが、今期も9トンと低調に終わりました。

カタクチイワシは他漁場のように、水揚げのまとまった時期はありませんでした(図6)。この他1999年以降、水揚量が低迷していたサンマが、4月に7トン、5月に16トンと水揚げされ、上半期では26トンと1996年の44トンに次ぐ豊漁となっています。

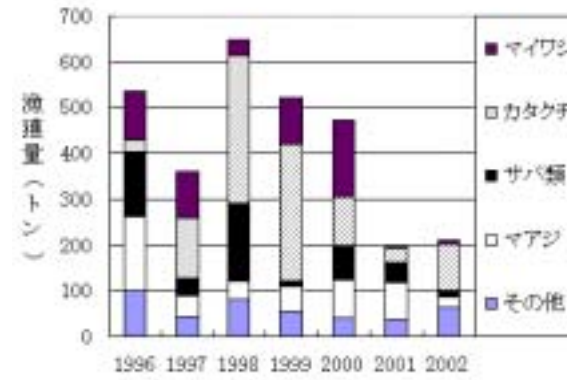


図5 波左間漁場における1996～2002年上半期の漁獲量の推移

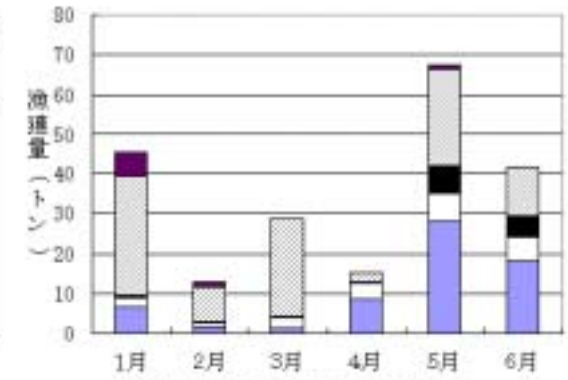


図6 波左間漁場における2002年1～6月の漁獲量の推移

#### 4. まとめ

上半期水揚量は、昨年と比べ鴨川で増加、和田で減少、波左間で昨年並みでした。マイワシは、2000年生まれの2歳魚がほとんど残っていないことに加え、2001年生まれの1歳魚も資源水準が低く、水揚量の低迷が続いています。カタクチイワシは、2001年生まれの1歳魚の資源量が豊富なことから、3漁場で水揚量が大幅に増加しました。サバ類は、資源量の豊富だった1999年生まれのゴマサバ以降、マサバ、ゴマサバとも資源水準の低い状態が続いており、水揚量は昨年から減少傾向にあります。ハリセンボンが、1～4月にかけて大量に入網しました。(詳細はNo.14-8に既報)